

4 明倫短期大学における実習教育の改善 — 歯科衛生士学科「歯科補綴学」合同体験実習 —

天池千嘉子, 野村章子¹, 渡邊美幸, 江川広子

明倫短期大学 歯科衛生士学科, ¹歯科技工士学科

keywords : 学生参加型授業, 2・3年生合同体験実習, 概形印象採得, 咬合紙検査

はじめに

歯科医師の診療行為を理解して歯科衛生士が歯科診療補助を確実にすることを目的に, 平成21年度より歯科補綴学において歯科衛生士学科2・3年生を対象に学生参加型の合同体験実習に取り組み, 学生間の相互作用を重視した¹⁾. 平成22年度には前年度の問題点を把握し指導者役である3年生の増員等を図った²⁾. 今年度は3年生の役割分担などの改善を加えた結果, 明らかとなった教育効果について報告する.

対象および方法

1年間の臨地・臨床実習終了間近の3年生から選んだ12名, および同実習を10月3日より開始する2年生51名を対象とした.

指導者役となる3年生に9月6日(50分間)本学附属歯科診療所において, 歯科医師教員と歯科衛生士教員の示説後, 相互にトレーニングを行った.

次に, 2・3年生合同体験実習を9月22日(90分間)に実施した. 実習場所を基礎実習室(歯科用ユニット26台設置)と実験室(実習テーブル8台設置)の2カ所に設け, 3年生を概形印象採得, 咬合紙検査担当と専属で役割分担した. 2年生は3年生の示説を見学後, 3年生の指導のもとで相互に体験した. 事前実習および合同体験実習の実施後直ちに, 2・3年生から本実習についてのアンケートを求めた.

結果および考察

指導者役の3年生の回答から, 手技をうまく説明できたと答えた学生が概形印象採得83%(平成22年度比較値:50%), 咬合紙検査100%(70%)であった. 2年生の回答では, 3年生の態度が良かったが73%(64%)であった. これらの結果から, 指導者役の3年生は2年次に本実習を経験しているため, 教員の事前説明を

容易に理解し, 2年生への指導にも意欲的であった. また, 役割分担したことにより2年生への指導に集中でき, ゆとりのある行動につながったと考えられる.

2年生は3年生の示説に対して身振りも添えながら熱心に学んでいた. 2年生の94%(83%)がこの時期に行って良かったと回答したことから, 実習間近な2年生が3年生に対して臨地・臨床実習全般の相談しやすい環境を創ったからと思われる.



3年生による咬合紙検査の示説
周囲は臨地・臨床実習全般について自主討論

まとめ

合同体験実習は両者にとって歯科診療補助の理解を深めることができ, また学生間の相互作用により臨地・臨床実習のモチベーションが高まった.

今後も実習全般において工夫し, 歯科診療補助の理解を深めさせる必要がある.

参考文献

- 1) 野村章子ほか, 歯科衛生士学科「歯科補綴学」合同体験実習の試み, 明倫歯誌, 61, 113, 2010
- 2) 西山真紗美ほか, 歯科衛生士学科「歯科補綴学」合同体験実習の取り組み, 明倫歯誌, 87, 114, 2010